

# ヨハネの黙示録

## 1

1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使<sup>みつか</sup>いを遣<sup>つか</sup>わして、これをしもべヨハネにお告げになった。

2 ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。

3 この預言<sup>よげん</sup>のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

4 ヨハネから、アジヤにある七つの教会へ。常にいまし、昔いまし、<sup>のち</sup>後に来られる方から、また、その御座<sup>みざ</sup>の前におられる七つの御霊<sup>みたま</sup>から、

5 また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、

6 また、私たちを王とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。キリストに栄光と力とが、とこしえにあるように。アーメン。

7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き

刺<sup>さ</sup>した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆<sup>なげ</sup>く。しかり。アーメン。

8 神である主<sup>しゅ</sup>、常にいまし、昔いまし、後<sup>のち</sup>に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難<sup>くなん</sup>と御国<sup>みくに</sup>と忍耐<sup>にんたい</sup>とにあずかっている者であって、神のことばとイエスのあかしのゆえに、パトモスという島にいた。

10 私は、主<sup>しゅ</sup>の日に御霊<sup>みたま</sup>に感じ、私のうしろにラッパの音のような大きな声を聞いた。

11 その声はこう言った。「あなたの見ることを巻き物にしるして、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤに送りなさい。」

12 そこで私は、私に語りかける声を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金<sup>きん</sup>の燭台<sup>しょくだい</sup>が見えた。

13 それらの燭台の真中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。

14 その頭と髪<sup>かみ</sup>の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のようであった。

15 その足は、炉で精練されて光り輝くしんちゅうのようであり、その声は大水の音のようであった。

16 また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。

17 それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のよ

うになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、

18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。

19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。

20 わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。

## 2

1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。

『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。

2 「わたしは、あなたの行ないとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。

3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。

4 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

5 それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、

初めの行ないをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台しよくだいをその置かれた所から取りはずしてしまおう。

6 しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行ないを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。

7 耳のある者は御霊みたまが諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』

8 また、スミルナにある教会の御使いに書き送れ。

『初めであり、終わりである方、死んで、また生きた方が言われる。

9 「わたしは、あなたの苦しみと貧しさとを知っている。——しかしあなたは実際は富んでいる。——またユダヤ人だと自称しているが、実はそうでなく、かえってサタンかいしゅうの会衆である人たちから、ののしられていることも知っている。

10 あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠かんむりを与えよう。

11 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない。』

12 また、ペルガモにある教会の御使いに書き送れ。

『鋭い、両刃りょうば つるぎの剣を持つ方がこう言われる。

13 「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座<sup>おうざ</sup>がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでも、わたしに対する信仰を捨てなかった。

14 しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行<sup>ふひんこう</sup>を行なわせた。

15 それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。

16 だから、悔い改めなさい。もしそうしないなら、わたしは、すぐにあなたのところに行き、わたしの口<sup>くち</sup>の剣<sup>つるぎ</sup>をもって彼らと戦おう。

17 耳のある者は御霊<sup>みたま</sup>が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。』

18 また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。

『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。

19 「わたしは、あなたの行ないとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あなたの近ごろの行ないが初めの行ないにまさっていることも知っている。

20 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベ

ルという女をなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて誤りに導き、不品行ふひんこうを行なわせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。

21 わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改めようとしなない。

22 見よ。わたしは、この女を病やまいの床とこに投げ込もう。また、この女と姦淫かんいんを行なう者たちも、この女の行ないを離れて悔い改めなければ、大きな患難かんなんの中に投げ込もう。

23 また、わたしは、この女の子どもたちをも死病によって殺す。こうして全教会は、わたしが人の患いと心を探る者であることを知るようになる。また、わたしは、あなたがたの行ないに応じてひとりひとりに報いよう。

24 しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れておらず、彼らの言うサタンの深いところをまだ知っていないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。

25 ただ、あなたがたの持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていなさい。

26 勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。

27 彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。

28 また、彼に明けの明星を与えよう。

29 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』』

### 3

1 また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。

『神の七つの御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>、および七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。

2 目をさましなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行ないが、わたしの神の御<sup>み</sup>前<sup>まえ</sup>に全<sup>ま</sup>う<sup>ま</sup>されたとは見ていない。

3 だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出さなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさまさないければ、わたしは盗<sup>ぬす</sup>人<sup>びと</sup>のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。

4 しかし、サルデスには、その衣<sup>けが</sup>を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。

5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。

6 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』

7 また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。

『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がいない、その

方がこう言われる。

8 「わたしは、あなたの行ないを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。

9 見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。

10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。

11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠<sup>かんむり</sup>をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。

12 勝利を得る者を、わたしの神の聖所<sup>せいじよ</sup>の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。

13 耳のある者は御霊<sup>みたま</sup>が諸教会に言われることを聞きなさい。』

14 また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。

『アーメンである方、忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源である方がこう言われる。

15 「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、冷たくも



なく、熱くもない。わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。

16 このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出そう。

17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。

18 わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精練された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥を現わさないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。

19 わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。

20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところには行って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。

22 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』』

## 4

1 その<sup>のち</sup>後、私は見た。それは天にある開いた門である。すると、

先にラッパのような声で私に呼びかけるのが聞こえたあの初めの声が言った。「ここに上れ。この<sup>のち</sup>後、必ず起こる事をあなたに示そう。」

2 たちまち私は御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>に感じた。すると見よ。天に一つの御座<sup>みざ</sup>があり、その御座に着いている方があり、

3 その方は、碧<sup>へきぎよく</sup>玉や赤めのうのように見え、その御座の回りには、緑<sup>りよくぎよく</sup>玉のように見える虹があった。

4 また、御座の回りに二十四の座があった。これらの座には、白い衣を着て、金<sup>かんむり</sup>の冠を頭にかぶった二十四人の長老たちがすわっていた。

5 御座からいなずまと声と雷<sup>らいめい</sup>鳴が起こった。七つのともしびが御座の前で燃えていた。神の七つの御霊である。

6 御座の前は、水晶に似たガラスの海のようにであった。御座の中央と御座の回りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。

7 第一の生き物は、ししのようにであり、第二の生き物は雄牛のようにであり、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は空飛ぶわしのようにであった。

8 この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その回りも内側も目で満ちていた。彼らは、昼も夜も絶え間なく叫び続けた。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主<sup>しゅ</sup>、万物の支配者、昔いまし、常にいまし、後<sup>のち</sup>に来られる方。」

9 また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、栄光、誉れ、感謝をささげるとき、

10 二十四人の長老は御座に着いている方の御前にひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠<sup>かんむり</sup>を御座の前に投げ出して

言った。

11 「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」

## 5

1 また、私は、御座にすわっておられる方の右の手に巻き物があるのを見た。それは内側にも外側にも文字が書きしるされ、七つの封印で封じられていた。

2 また私は、ひとりの強い御使いが、大声でふれ広めて、「巻き物を開いて、封印を解くのにふさわしい者はだれか。」と言っているのを見た。

3 しかし、天にも、地にも、地の下にも、だれひとりその巻き物を開くことのできる者はなく、見ることのできる者もいなかった。

4 巻き物を開くのに、見るのに、ふさわしい者がだれも見つからなかったので、私は激しく泣いていた。

5 すると、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出たしし、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。」

6 さらに私は、御座——そこには、四つの生き物がいる。——と、長老たちとの間に、ほふられたと見える小羊<sup>こひつじ</sup>が立っているのを見た。これに七つの角と七つの目があつた。その目は、全世界に遣わされた神の七つの御霊<sup>みたま</sup>である。

7 小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物を受け取った。

8 彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、立<sup>たて</sup>琴と、香のいっばいはいった金の鉢<sup>こひつじ</sup>とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。

9 彼らは、新しい歌を歌って言った。

「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々<sup>あがな</sup>を贖い、

10 私たちの神のために、この人々を王とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。」

11 また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。

12 彼らは大声で言った。

「ほふられた小羊<sup>こひつじ</sup>は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」

13 また私は、天と地と、地の下と、海の上のあらゆる造られたもの、およびその中にある生き物がこう言うのを聞いた。

「御座にすわる方と、小羊<sup>こひつじ</sup>とに、賛美<sup>ほま</sup>と誉れと栄光と力が永遠にあるように。」

14 また、四つの生き物はアーメンと言い、長老たちはひれ伏して拝んだ。

## 6

1 また、私は見た。小羊<sup>こひつじ</sup>が七つの封印の一つを解いたとき、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい。」と言うのを私は聞いた。

2 私は見た。それは、白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠<sup>かんむり</sup>を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。

3 小羊<sup>こひつじ</sup>が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が、「来なさい。」と言うのを聞いた。

4 すると、別の、火のように赤い馬が出て来た。これに乗っている者は、地上から平和を奪い取ることが許された。人々が、互いに殺し合うようになるためであった。また、彼に大きな剣<sup>つるぎ</sup>が与えられた。

5 小羊<sup>こひつじ</sup>が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が、「来なさい。」と言うのを聞いた。私は見た。それは、黒い馬であった。これに乗っている者は量りを手に持っていた。

6 すると私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の間で、こう言うのを聞いた。「小麦一柁は一デナリ。大麦三柁も一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」

7 小羊<sup>こひつじ</sup>が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物の声が、「来なさい。」と言うのを聞いた。

8 私は見た。それは青ざめた馬であった。これに乗っている者の名は死といい、そのあとにはハデスがつき従った。彼らに地上の四分

の一を剣つるぎとききんと死病と地上の獣によって殺す権威が与えられた。

9 小羊こひつじが第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。

10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実しゆな主よ。いつまでさばきを行なわず、地に住む者に私たちの血ふくしゅうの復讐をなさないのですか。」

11 すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい。」と言い渡された。

12 私は見た。小羊こひつじが第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。そして、太陽は毛あらぬのの荒布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。

13 そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが、大風に揺られて、青い実を振り落とすようであった。

14 天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。

15 地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、ほら穴と山の岩間に隠れ、

16 山や岩に向かってこう言った。「私たちの上に倒れかかって、御座みかおにある方こひつじの御顔と小羊の怒りとから、私たちをかくまってくれ。

17 御怒りみいかの大いなる日みいかが来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

# 7

1 この<sup>のち</sup>後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押え、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。

2 また私は見た。もうひとりの御使いが、生ける神の印を持って、日の出るほうから上<sup>のぼ</sup>って来た。彼は、地をも海をもそこなう権威を与えられた四人の御使いたちに、大声で叫んで言った。

3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない。」

4 それから私が、印を押された人々の数を聞くと、イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、十四万四千人であった。

5 ユダの部族で印を押された者が一万二千人、ルベンの部族で一万二千人、ガドの部族で一万二千人、

6 アセルの部族で一万二千人、ナフタリの部族で一万二千人、マナセの部族で一万二千人、

7 シメオンの部族で一万二千人、レビの部族で一万二千人、イッサカルの部族で一万二千人、

8 ゼブルンの部族で一万二千人、ヨセフの部族で一万二千人、ベニヤミンの部族で一万二千人、印を押された者がいた。

9 その<sup>のち</sup>後、私は見た。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手<sup>こひつじ</sup>に持って、御座と小羊との前に立っていた。

10 彼らは、大声で叫んで言った。

「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊こひつじにある。」

11 御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていたが、彼らも御座の前にひれ伏し、神を拝して、

12 言った。

「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」

13 長老のひとりが私に話しかけて、「白い衣を着ているこの人たちは、いったいだれですか。どこから来たのですか。」と言った。

14 そこで、私は、「主しゅよ。あなたこそ、ご存じです。」と言った。すると、彼は私にこう言った。「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣ころもを小羊こひつじの血で洗って、白くしたのです。」

15 だから彼らは神の御座の前において、聖所で昼も夜も、神に仕えているのです。そして、御座に着いておられる方も、彼らの上に幕まく屋やを張られるのです。

16 彼らはもはや、飢うえることもなく、渴かわくこともなく、太陽もどんな炎熱えんねつも彼らを打つことはありません。

17 なぜなら、御座の正面におられる小羊こひつじが、彼らの牧者ぼくしゃとなり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。」

## 8

1 小羊こひつじが第七の封印を解いたとき、天に半時間ばかり静けさが



あった。

2 それから私は、神の御前<sup>みまえ</sup>に立つ七人の御使いを見た。彼らに七つのラッパが与えられた。

3 また、もうひとりの御使いが出て来て、金の香炉を持って祭壇のところに立った。彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。

4 香<sup>こう</sup>の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。

5 それから、御使いは、その香炉を取り、祭壇の火でそれを満たしてから、地に投げつけた。すると、雷鳴と声といはずまと地震が起こった。

6 すると、七つのラッパを持っていた七人の御使いはラッパを吹く用意をした。

7 第一の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、血の混じった雷と火とが現われ、地上に投げられた。そして地上の三分の一が焼け、木の三分の一も焼け、青草が全部焼けてしまった。

8 第二の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして海の三分の一が血となった。

9 すると、海の中にいた、いのちのあるものの三分の一が死に、舟の三分の一も打ちこわされた。

10 第三の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつ

ように燃えている大きな星が天から落ちて来て、川々の三分の一とその水源に落ちた。

11 この星の名は<sup>にが</sup>苦よもぎと呼ばれ、川の水の三分の一は苦よもぎのようになった。水が苦くなったので、その水のために多くの人が死んだ。

12 第四の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜も同様であった。

13 また私は見た。一羽のわしが中天を飛びながら、大声で言うのを聞いた。「わざわざいが来る。わざわざいが、わざわざいが来る。地に住む人々に。あと三人の御使いがラッパを吹き鳴らそうとしている。」

## 9

1 第五の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は一つの星が天から地上に落ちるのを見た。その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。

2 その星が、底知れぬ穴を開くと、穴から大きな炉の煙のような煙が立ち上り、太陽も空も、この穴の煙によって暗くなった。

3 その煙の中から、いなごが地上に出て来た。彼らには、地のさそりの持つような力が与えられた。

4 そして彼らは、地の草やすべての青草や、すべての木には害を加えないで、ただ、額に神の印を押されていない人間にだけ害を加えるように言い渡された。

5 しかし、人間を殺すことは許されず、ただ五か月の間苦しめることだけが許された。その与えた苦痛は、さそりが人を刺したときのような苦痛であった。

6 その期間には、人々は死を求めるが、どうしても見いだせず、死を願うが、死が彼らから逃げて行くのである。

7 そのいなごの形は、出陣の用意の整った馬に似ていた。頭に金の冠かんむりのようなものを着け、顔は人間の顔のようであった。

8 また女の髪のような毛があり、歯は、ししの歯のようであった。

9 また、鉄の胸当てのような胸当てを着け、その翼の音は、多くの馬に引かれた戦車はが、戦いに馳せつけるときの響きのようであった。

10 そのうえ彼らは、さそりのような尾と針とを持っており、尾には、五か月間人間に害を加える力があつた。

11 彼らは、底知れぬ所の御使いを王にいただいている。彼の名はヘブル語でアバドンといい、ギリシヤ語でアポリュオンという。

12 第一のわざわいは過ぎ去つた。見よ。この後のちなお二つのわざわいが来る。

13 第六の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は神の御前よすみにある金の祭壇の四隅から出る声を聞いた。

14 その声がラッパを持っている第六の御使いに言った。「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き放せ。」

15 すると、定められた時、日、月、年のために用意されていた四人の御使いが、人類の三分の一を殺すために解き放された。

16 騎兵の軍勢の数は二億であつた。私はその数を聞いた。

17 私が幻の中で見た馬とそれに乗る人たちの様子はこうであった。騎兵は、火のような赤、くすぶった青、燃える硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は、ししの頭のように、口からは火と煙と硫黄<sup>いおう</sup>とが出ていた。

18 これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された。

19 馬の力はその口とその尾とにあって、その尾は蛇のようであり、それに頭があって、その頭で害を加えるのである。

20 これらの災害によって殺されずに残った人々は、その手のわざを悔い改めないで、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、

21 その殺人や、魔術や、<sup>ふひんこう</sup>不品行や、盗みを悔い改めなかった。

## 10

1 また私は、もうひとりの強い御使いが、雲に包まれて、天から降りて来るのを見た。その頭上には虹があって、その顔は太陽のようであり、その足は火の柱のようであった。

2 その手には開かれた小さな巻き物を持ち、右足は海の上に、左足は地の上に置き、

3 ししがほえるときのように大声で叫んだ。彼が叫んだとき、七つの雷がおのおの声を出した。

4 七つの雷が語ったとき、私は書き留めようとした。すると、天から声があって、「七つの雷が言ったことは封じて、書きしるすな。」

と言うのを聞いた。

5 それから、私の見た海と地との上に立つ御使いは、右手を天に上げて、  
6 永遠に生き、天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるものを創造された方をさして、誓った。「もはや時  
が延ばされることはない。

7 第七の御使いが吹き鳴らそうとしているラッパの音が響くその日には、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げられたとおりに成就する。」

8 それから、前に私が天から聞いた声が、また私に話しかけて言った。「さあ行って、海と地との上に立っている御使いの手にある、開かれた巻き物を受け取りなさい。」

9 それで、私は御使いのところに行って、「その小さな巻き物を下さい。」と言った。すると、彼は言った。「それを取って食べなさい。それはあなたの腹には苦いが、あなたの口には蜜のように甘い。」

10 そこで、私は御使いの手からその小さな巻き物を取って食べた。すると、それは口には蜜のように甘かった。それを食べてしまうと、私の腹は苦くなった。

11 そのとき、彼らは私に言った。「あなたは、もう一度、もろもろの民族、国民、国語、王たちについて預言しなければならない。」

## 11

1 それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。「立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼

拝している人を測れ。

2 聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。

3 それから、わたしがわたしのふたりの証人に許すと、彼らは<sup>あらぬの</sup>荒布を着て千二百六十日の間預言する。」

4 彼らは<sup>ぜんち しゅ みまえ</sup>全地の主の御前にある二本のオリーブの木、また二つの<sup>しよくだい</sup>燭台である。

5 彼らに害を加えようとする者があれば、火が彼らの口から出て、敵を滅ぼし尽くす。彼らに害を加えようとする者があれば、必ずこのように殺される。

6 この人たちは、預言をしている期間は雨が降らないように天を閉じる力を持っており、また、水を血に変え、そのうえ、思うままに、何度でも、あらゆる災害をもって地を打つ力を持っている。

7 そして彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から<sup>のぼ</sup>上って来る<sup>けもの</sup>獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。

8 彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの<sup>しゅ みやこ</sup>主もその都で十字架につけられたのである。

9 もろもろの民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめていて、その死体を墓に納めることを許さない。

10 また地に住む人々は、彼らのことで喜び祝って、互いに贈り物を贈り合う。それは、このふたりの預言者が、地に住む人々を苦し

めたからである。

11 しかし、三日半の後、神から出たいのちの息が、彼らにはいり、彼らが足で立ち上がったので、それを見ていた人々は非常な恐怖に襲われた。

12 そのときふたりは、天から大きな声がして、「ここに上れ。」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲に乗って天に上った。彼らの敵はそれを見た。

13 そのとき、大地震が起こって、都の十分の一が倒れた。この地震のため七千人が死に、生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた。

14 第二のわざわいは過ぎ去った。見よ。第三のわざわいがすぐに来る。

15 第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。

「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。  
主は永遠に支配される。」

16 それから、神の御前で自分たちの座に着いている二十四人の長老たちも、地にひれ伏し、神を礼拝して、

17 言った。

「万物の支配者、常にいまし、昔います神である主。あなたが、その偉大な力を働かせて、王となられたことを感謝します。

18 諸国の民は怒りましたが、あなたの御怒りが現われました。死者のさばかれる時、あなたのしもべである預言者たち、聖徒た

ち、また小さい者も大きい者もすべてあなたの御名<sup>みな</sup>を恐れかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時が来たのです。」

19 それから、天にある、神の神殿が聞かれた。神殿の中に、契約の箱が見えた。また、いなずま、声、雷鳴、地震が起こり、大きな雹<sup>ひょう</sup>が降った。

## 12

1 また、巨大なしるしが天に現われた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。

2 この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。

3 また、別のしるしが天に現われた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。

4 その尾は、天の星の三分の一を引き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。

5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄<sup>てつ</sup>の杖<sup>つえ</sup>をもって、すべての国々の民<sup>たみ</sup>を牧<sup>ぼく</sup>するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。

6 女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。

7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と



戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、

8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。

9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。

10 そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。

「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現われた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前<sup>みまえ</sup>で訴えている者が投げ落とされたからである。

11 兄弟たちは、小羊<sup>こひつじ</sup>の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。

12 それゆえ、天とその中に住む者たち。喜びなさい。しかし、地と海とには、わざわいが来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」

13 自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を迫いかけた。

14 しかし、女は大わしの翼を二つ与えられた。自分の場所である<sup>あらの</sup>荒野に飛んで行って、そこで一時<sup>ひとき</sup>と二時<sup>ふたとき</sup>と半時<sup>はんとき</sup>の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。

15 ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。

16 しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出し

た川を飲み干した。

17 すると、竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。

18 そして、彼は海への砂の上に立った。

## 13

1 また私は見た。海から一匹の獣<sup>けもの</sup>が上<sup>のぼ</sup>って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠<sup>かんむり</sup>があり、その頭には神をけがす名があった。

2 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口はししの口のものであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。

3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、

4 そして、竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう。」と言った。

5 この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。

6 そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。

7 彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。

8 地に住む者で、ほふられた小羊こひつじのいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。

9 耳のある者は聞きなさい。

10 とりこになるべき者は、とりこにされて行く。剣つるぎで殺す者は、自分も剣つるぎで殺されなければならない。ここに聖徒せいとの忍耐と信仰がある。

11 また、私は見た。もう一匹の獣けものが地から上のぼって来た。それに小羊こひつじのような二本の角があり、竜のようにものを言った。

12 この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。

13 また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行なった。

14 また、あの獣の前で行なうことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。

15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額ひたいかに、刻印を受けさせた。

17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。

18 ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。

## 14

1 また私は見た。見よ。小羊こひつじがシオンの山の上に立っていた。また小羊こひつじとともに十四万四千人の人たちがいて、その額ひたいには小羊こひつじの名と、小羊こひつじの父の名とがしるしてあった。

2 私は天からの声を聞いた。大水の音のようで、また、激しい雷鳴らいめいのようであった。また、私の聞いたその声は、立琴をひく人々が立琴をかき鳴らしている音のようでもあった。

3 彼らは、御座みざの前と、四つの生き物および長老たちの前とで、新しい歌を歌った。しかし地上あがなから贖われた十四万四千人のほかには、だれもこの歌を学ぶことができなかった。

4 彼らは女けがによって汚されたことのない人々である。彼らは童貞なのである。彼らは、小羊こひつじが行く所には、どこにでもついて行く。彼らは、神こひつじおよび小羊こひつじにささげられる初穂はつほとして、人々の中から贖われたのである。

5 彼らの口には偽りいつわがなかった。彼らは傷のない者である。

6 また私は、もうひとりの御使ちゅうてんいが中天を飛ぶのを見た。彼は、地上に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣

べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。

7 彼は大声で言った。「神を恐れ、神をあがめよ。神のさばきの時が来たからである。天と地と海と水の源を創造した方を拝め。」

8 また、第二の、別の御使いが続いてやって来て、言った。「大バビロンは倒れた。倒れた。激しい御怒りを引き起こすその不品行のぶどう酒を、すべての<sup>くにくに</sup>国々の民に飲ませた者。」

9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、

10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と<sup>いおう</sup>硫黄とで苦しめられる。

11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも<sup>た のぼ</sup>立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の<sup>けもの な こくいん</sup>刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。

12 神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」

13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から<sup>のち しゆ</sup>後、主にあって死ぬ死者は幸いである。』」<sup>みたま</sup>御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行ないは彼らについて行くからである。」

14 また、私は見た。見よ。白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた。頭には<sup>ぎん かんむり</sup>金の冠をかぶり、手には<sup>すど</sup>鋭いか

まを持っておられた。

15 すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に向かって大声で叫んだ。「かまを入れて刈り取ってください。地の穀物こくもつは実ったので、取り入れる時が来ましたから。」

16 そこで、雲に乗っておられる方が、地にかまを入れると地は刈り取られた。

17 また、もうひとりの御使いが、天の聖所から出て来たが、この御使いも、鋭いかまを持っていた。

18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟しているのだから。」

19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。

20 その酒ぶねみやこは都の外で踏まれたが、血ちは、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

## 15

1 また私は、天にもう一つの巨大な驚くべきしるしを見た。七人の御使いが、最後の七つの災害を携えていた。神の激しい怒りはここに窮きわまるのである。

2 私は、火の混じった、ガラスの海のようなものを見た。獣けものと、その像と、その名を示す数字とに打ち勝った人々が、神の立琴たてことを手

にして、このガラスの海のほとりに立っていた。

3 彼らは、神のしもべモーセの歌と小羊<sup>こひつじ</sup>の歌とを歌って言った。

「あなたのみわざは偉大であり、驚くべきものです。主<sup>しゅ</sup>よ。万物の支配者である神よ。あなたの道は正しく、真実です。もろもろの民の王よ。

4 主<sup>しゅ</sup>よ。だれかあなたを恐れず、御名<sup>みな</sup>をほめたたえない者があるでしょうか。ただあなただけが、聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前<sup>みまえ</sup>にひれ伏します。あなたの正しいさばきが、明らかにされたからです。」

5 その後、また私は見た。天にある、あかしの幕屋<sup>まくや</sup>の聖所<sup>せいじょ</sup>が開いた。

6 そしてその聖所から、七つの災害<sup>たずさ</sup>を携えた七人の御使いが出て来た。彼らは、きよい光り輝く亜麻布<sup>あまぬの</sup>を着て、胸には金の帯<sup>きんおび</sup>を締めていた。

7 また、四つの生き物の一つが、永遠に生きておられる神の御怒りの満ちた七つの金の鉢を、七人の御使いに渡した。

8 聖所は神の栄光と神の大能<sup>たいのう</sup>から立ち上る煙<sup>たのぼ</sup>で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその聖所に、はいることができなかった。

## 16

1 また、私は、大きな声が聖所から出て、七人の御使いに言うのを聞いた。「行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に向けてぶちまけよ。」

2 そこで、第一の御使いが出て行き、鉢を地に向けてぶちまけた。すると、獣<sup>けもの</sup>の刻印<sup>こくいん</sup>を受けている人々と、獣<sup>けもの</sup>の像<sup>ぞう</sup>を拝む人々に、ひどい悪性<sup>あくせい</sup>のはれものができた。

3 第二の御使いが鉢を海にぶちまけた。すると、海は死者の血のような血になった。海の中のいのちのあるものは、みな死んだ。

4 第三の御使いが鉢を川と水の源とにぶちまけた。すると、それらは血になった。

5 また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。「常にいまし、昔います聖なる方。あなたは正しい方です。なぜならあなたは、このようなさばきをなされたからです。

6 彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは、その血を彼らに飲ませました。彼らは、そうされるにふさわしい者たちです。」

7 また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。「しかり。主<sup>しゅ</sup>よ。万物の支配者である神よ。あなたのさばきは真実な、正しいさばきです。」

8 第四の御使いが鉢を太陽に向けてぶちまけた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。

9 こうして、人々は激しい炎熱によって焼かれた。しかも、彼らは、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名に対してけがしごとを言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった。

10 第五の御使いが鉢を獣<sup>けもの</sup>の座<sup>ざ</sup>にぶちまけた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。

11 そして、その苦しみと、はれものとのゆえに、天の神に対して



けがしごとを言い、自分の行ないを悔い改めようとしなかった。

12 第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうから来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。

13 また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるような汚れた<sup>けが</sup>霊<sup>れい</sup>どもが三つ出て来るのを見た。

14 彼らはしるしを行なう<sup>あくれい</sup>悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。

15 ——見よ。わたしは盗人<sup>ぬすびと</sup>のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである。——

16 こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる所に王たちを集めた。

17 第七の御使いが鉢を空中にぶちまけた。すると、大きな声が御座を出て、聖所の中から出て来て、「事は成就した。」と言った。

18 すると、いなずまと声と雷鳴があり、大きな地震があった。この地震は人間が地上に住んで以来、かつてなかったほどのもので、それほどに大きな、強い地震であった。

19 また、あの大きな都は三つに裂かれ、諸国の民の町々は倒れた。そして、大バビロンは、神の前に<sup>おぼ</sup>覚えられて、神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。

20 島<sup>しま</sup>はすべて逃げ去り、山々は見えなくなった。

21 また、一タラントほどの大きな<sup>ひょう</sup>雹が、人々の上に天から降って来

た。人々は、この雹の災害のため、神にけがしごとを言った。その災害が非常に激しかったからである。

## 17

1 また、七つの鉢を持つ七人の御使いのひとりが来て、私に話して、こう言った。「ここに来なさい。大水おおみずの上にすわっている大淫婦だいいんぶへのさばきを見せましょう。

2 地の王たちは、この女ふひんこうと不品行を行ない、地に住む人々も、この女の不品行のぶどう酒に酔ったのです。」

3 それから、御使いは、御霊みたまに感じた私を荒野あらのに連れて行った。すると私は、ひとりの女が緋色ひいろの獣に乗っているのを見た。その獣は神をけがす名で満ちており、七つの頭と十本の角を持っていた。

4 この女は紫と緋ひの衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものや自分の不品行けがの汚れでいっぱいになった金の杯を手に持っていた。

5 その額ひたいには、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦いんぶと地の憎むべきものとの母、大バビロン。」という名であった。

6 そして、私はこの女が、聖徒たちの血とイエスの証人しょうにんたちの血に酔っているのを見た。私はこの女を見たとき、非常に驚いた。

7 すると、御使いは私にこう言った。「なぜ驚くのですか。私は、あなたに、この女の秘義ひぎと、この女を乗せた、七つの頭と十本の角とを持つ獣の秘義とを話してあげましょう。

8 あなたの見た獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上<sup>のぼ</sup>って来ます。そして彼は、ついには滅びます。地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現われるのを見て驚きます。

9 ここに知恵の心があります。七つ<sup>あたま</sup>の頭とは、この女がすわっている七つ<sup>やま</sup>の山で、七人<sup>おう</sup>の王たちのことです。

10 五人はすでに倒れたが、一人は今おり、ほかの一人は、まだ来ていません。しかし彼が来れば、しばらくの間とどまるはずです。

11 また、昔いたが今はいない獣<sup>けもの</sup>について言えば、彼は八番目でもありますが、先の七人のうちの一人です。そして彼はついには滅びます。

12 あなたが見た十本の角<sup>つの</sup>は、十人<sup>おう</sup>の王たちで、彼らは、まだ国を受けてはいませんが、獣とともに、ひと時だけ王の権威を受けます。

13 この者どもは心を一つにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えます。

14 この者どもは小羊<sup>こひつじ</sup>と戦いますが、小羊<sup>こひつじ</sup>は彼らに打ち勝ちます。なぜならば、小羊<sup>こひつじ</sup>は主<sup>しゅ</sup>の主<sup>しゅ</sup>、王<sup>おう</sup>の王<sup>おう</sup>だからです。また彼とともにいる者たちは、召<sup>め</sup>された者、選ばれた者、忠実な者だからです。」

15 御使いはまた私に言った。「あなたが見た水、すなわち淫婦<sup>いんぶ</sup>がすわっている所は、もろもろの民族、群衆、国民、国語です。

16 あなたが見た十本の角と、あの獣とは、その淫婦を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすように

なります。

17 それは、神が、みことばの成就する<sup>じょうじゆ</sup>ときまで、神のみこころを行なう思いを彼らの心に起こさせ、彼らが心を一つにして、その支配権を獣に与えるようにされたからです。

18 あなたが見たあの女は、地上の王たちを支配する大きな都<sup>みやこ</sup>のことです。」

## 18

1 この後<sup>のち</sup>、私は、もうひとりの御使いが、大きな権威を帯びて、天から下<sup>くだ</sup>って来るのを見た。地はその栄光のために明るくなった。

2 彼は力強い声で叫んで言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。そして、悪霊<sup>あくれい</sup>の住まい、あらゆる汚れた<sup>けが</sup>霊<sup>れい</sup>どもの巣<sup>そう</sup>くつ、あらゆる汚れた<sup>けが</sup>、憎むべき鳥<sup>とり</sup>どもの巣くつとなった。

3 それは、すべての国々の民が、彼女の不品行<sup>ふひんこう</sup>に対する激しい御怒<sup>みいか</sup>りのぶどう酒を飲み、地上の王たちは、彼女と不品行を行ない、地上の商人たちは、彼女の極度の好色によって富を得たからである。」

4 それから、私は、天からのもう一つの声がこう言うのを聞いた。「わが民よ。この女から離れなさい。その罪にあずからないため、また、その災害を受けないためです。

5 なぜなら、彼女の罪は積み重なって天にまで届き、神は彼女の不正を覚えておられるからです。

6 あなたがたは、彼女が支払ったものをそのまま彼女に返し、彼女の行ないに応じて二倍にして戻しなさい。彼女が混ぜ合わせた杯の

中には、彼女のために二倍の量を混ぜ合わせなさい。

7 彼女が自分を誇り、好色にふけたと同じだけの苦しみと悲しみとを、彼女に与えなさい。彼女は心の中で『私は女王の座に着いている者であり、やもめではないから、悲しみを知らない。』と言うからです。

8 それゆえ一日のうちに、さまざまの災害、すなわち死病、悲しみ、飢えが彼女を襲い、彼女は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は力の強い方だからです。

9 彼女と不品行を行ない、好色にふけた地上の王たちは、彼女が火で焼かれる煙を見ると、彼女のことで泣き、悲しみます。

10 彼らは、彼女の苦しみを恐れたために、遠く離れて立っていて、こう言います。『わざわいが来た。わざわいが来た。大きな都よ。力強い都、バビロンよ。あなたのさばきは、一瞬のうちに来た。』

11 また、地上の商人たちは彼女のことで泣き悲しみます。もはや彼らの商品を買う者がだれもないからです。

12 商品とは、金、銀、宝石、真珠、麻布、紫布、絹、緋布、香木、さまざまの象牙細工、高価な木や銅や鉄や大理石で造ったあらゆる種類の器具、

13 また、肉桂、香料、香、香油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、麦粉、麦、牛、羊、それに馬、戦車、奴隷、また人のいのちです。

14 また、あなたの心の望みである熟したくだものは、あなたから遠ざかってしまい、あらゆるはでな物、はなやかな物は消えうせて、もはや、決してそれらの物を見いだすことができません。

15 これらの物を商<sup>あきな</sup>って彼女から富<sup>とみ</sup>を得ていた商人たちは、彼女の苦しみを恐れたために、遠く離れて立っていて、泣き悲しんで、

16 言います。『わざわいが来た。わざわいが来た。麻布、紫布、緋布を着て、金、宝石、真珠を飾りにしていた大きな都よ。

17 あれほどの富が、一瞬のうちに荒<sup>あ</sup>れすたれてしまった。』また、すべての船長<sup>せんちょう</sup>、すべての船客<sup>せんきゃく</sup>、水夫<sup>すいふ</sup>、海で働く者たちも、遠く離れて立っていて、

18 彼女が焼かれる煙を見て、泣いて言いました。『このすばらしい都のような所がほかにあろうか。』

19 それから、彼らは、頭にちりをかぶって、泣き悲しみ、叫んで言いました。『わざわいが来た。わざわいが来た。大きな都よ。海に舟を持つ者はみな、この都のおごりによって富を得ていたのに、それが一瞬のうちに荒れすたれるとは。』

20 おお、天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、預言者たちよ。この都のことで喜びなさい。神は、あなたがたのために、この都にさばきを宣告されたからです。」

21 また、ひとりの強い御使いが、大きい、ひき<sup>うす</sup>白のような石を取り上げ、海に投げ入れて言った。「大きな都バビロンは、このように激しく打ち倒されて、もはやなくなって消えうせてしまう。

22 立琴をひく者、歌を歌う者、笛を吹く者、ラッパを鳴らす者の声は、もうおまえのうちに聞かれなくなる。あらゆる技術を持った職人たちも、もうおまえのうちに見られなくなる。ひき白の音も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。

23 ともしびの光は、もうおまえのうちに輝かなくなる。花婿、  
花嫁の声も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。なぜなら、おま  
えの商人たちは地上の力ある者どもで、すべての国々の民がおまえ  
の魔術にだまされていたからだ。

24 また、預言者や聖徒たちの血、および地上で殺されたすべての  
人々の血が、この都の中に見いだされたからだ。」

## 19

1 この後、私は、天に大群衆の大きい声のようなものが、こう言  
うのを聞いた。

「ハレルヤ。救い、栄光、力は、われらの神のもの。

2 神のさばきは真実で、正しいからである。神は不品行によって  
地を汚した大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を  
彼女にされたからである。」

3 彼らは再び言った。「ハレルヤ。彼女の煙は永遠に立ち上る。」

4 すると、二十四人の長老と四つの生き物はひれ伏し、御座につい  
ておられる神を拝んで、「アーメン。ハレルヤ。」と言った。

5 また、御座から声が出て言った。

「すべての、神のしもべたち。小さい者も大きい者も、神を恐  
れかしくむ者たちよ。われらの神を賛美せよ。」

6 また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、  
こう言うのを聞いた。

「ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王と

なられた。

7 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時こひつじ こんいんが来て、花嫁はその用意ができたのだから。はなよめ

8 花嫁は、光り輝く、きよい麻布あさぬのの衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行ないである。」

9 御使いは私に「小羊の婚宴こひつじ こんえんに招かれた者は幸いだ、と書きなさい。」と言い、また、「これは神の真実のことばです。」と言った。

10 そこで、私は彼を拝もうとして、その足もとにひれ伏した。すると、彼は私に言った。「いけません。私は、あなたや、イエスのあかしを堅く保っているあなたの兄弟たちと同じしもべです。神を拝みなさい。イエスのあかしは預言よげんの霊れいです。」

11 また、私は開かれた天ひらを見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実。」と呼ばれる方であり、義ぎをもってさばきをし、戦いをされる。

12 その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があって、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。

13 その方は血に染まった衣ころも きを着ていて、その名は「神のことば」と呼ばれた。

14 天にある軍勢ぐんぜいはまっ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。

15 この方の口からは諸国の民たみを打つために、鋭い剣するど つるぎが出ていた。この方は、鉄てつの杖つえをもって彼らぼくを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。



16 その着物にも、ももにも、「王の王、主の主。」という名が書かれていた。

17 また私は、太陽の中にひとりの御使いが立っているのを見た。彼は大声で叫び、<sup>ちゅうてん</sup>中天を飛ぶすべての<sup>とり</sup>鳥に言った。「さあ、神の<sup>だいえんかい</sup>大宴会に集まり、

18 王の肉、千人隊長の肉、勇者の肉、馬とそれに乗る者の肉、すべての自由人と奴隷、小さい者と大きい者の肉を食べよ。」

19 また私は、<sup>けもの</sup>獣と地上の王たちとその軍勢が集まり、馬に乗った方とその軍勢と戦いを交えるのを見た。

20 すると、獣は捕えられた。また、獣の前でしるしを行ない、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々とを惑わしたあのにせ預言者も、彼といっしょに捕えられた。そして、このふたりは、<sup>いおう</sup>硫黄の燃えている火の池に、生きたままで投げ込まれた。

21 残りの者たちも、馬に乗った方の<sup>くち</sup>口から出る<sup>つるぎ</sup>剣によって殺され、すべての鳥が、彼らの肉を<sup>あ</sup>飽きるほどに食べた。

## 20

1 また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな<sup>くさり</sup>鎖とを手に持って、天から<sup>くだ</sup>下って来るのを見た。

2 彼は、<sup>あくま</sup>悪魔でありサタンである竜、あの古い<sup>へび</sup>蛇を捕え、これを千年の間<sup>しば</sup>縛って、

3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を<sup>まど</sup>惑わすことのないようにした。

サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。

4 また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行なう権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。

5 そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。

6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。

7 しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、

8 地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海べの砂のようである。

9 彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。

10 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。

11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。

12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も聞かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行ないに応じてさばかれた。

13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのこの自分の行ないに応じてさばかれた。

14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

## 21

1 また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、<sup>おっと</sup>夫のために飾られた<sup>はなよめ</sup>花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、<sup>くだ</sup>天から下って来るのを見た。

3 そのとき私は、<sup>みざ</sup>御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の<sup>まくや</sup>幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその<sup>たみ</sup>民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、

4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過

ぎ去ったからである。」

5 すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」

6 また言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、<sup>あた</sup>い価なしに飲ませる。

7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

8 しかし、おくびょう者、<sup>もの</sup>不信仰の者、<sup>にく</sup>憎むべき者、<sup>ひと</sup>人を殺す者、<sup>ふひんこう</sup>不品行の者、<sup>まじゆつ</sup>魔術を行なう者、<sup>おこ</sup>偶像を拜む者、<sup>くうぞう</sup>すべて偽りを言う者ども<sup>おが</sup>の受ける分は、火と<sup>いおう</sup>硫黄との燃える池<sup>いけ</sup>の中にある。これが第二の死である。」

9 また、最後の七つの災害の満ちているあの七つの鉢を持っていた七人の御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。「ここに来なさい。私はあなたに、<sup>こひつじ</sup>小羊の妻である花嫁を見せましょう。」

10 そして、御使いは<sup>みたま</sup>御霊によって私を大きな高い山に連れて行って、<sup>みやこ</sup>聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、<sup>くだ</sup>天から下って来るのを見せた。

11 都には神の栄光があった。その輝きは高価な宝石に似ており、<sup>す</sup>透き通った<sup>とお</sup>碧玉<sup>へきぎよく</sup>のようであった。

12 都には大きな高い城壁と十二の門があって、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いて

あった。

13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。

14 また、都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。

15 また、私と話していた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。

16 都は四角で、その長さとは幅は同じである。彼がそのさおで都を測ると、一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。

17 また、彼がその城壁を測ると、人間の尺度で百四十四ペーキュスあった。これが御使いの尺度でもあった。

18 その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。

19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髓、第四は緑玉、

20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十は緑玉髓、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。

21 また、十二の門は十二の真珠であった。どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。

22 私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。

23 都には、これを照らす太陽も月もいない。というのは、神の

栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。

24 諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たらはその栄光を携えて都に来る。

25 都の門は一日中決して閉じることがない。そこには夜がないからである。

26 こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。

27 しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行なう者は、決して都には入れない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、はいることができる。

## 22

1 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、

2 都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。

3 もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあって、そのしもべたちは神に仕え、

4 神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。

5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。

6 御使いはまた私に、「これらのことばは、信ずべきものであり、真実なのです。」と言った。預言者たちのたましいの神である主は、

その御使いを遣わし、すぐに起こるべき事を、そのしもべたちに示そうとされたのである。

7「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

8 これらのことを聞き、また見たのは私ヨハネである。私が聞き、また見たとき、それらのことを示してくれた御使いの足もとに、ひれ伏して拝もうとした。

9 すると、彼は私に言った。「やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書のことばを堅く守る人々と同じしもべです。神を拝みなさい。」

10 また、彼は私に言った。「この書の預言のことばを封じてはいけない。時が近づいているからである。」

11 不正を行なう者はますます不正を行ない、<sup>けが</sup>汚れた者はますます<sup>けが</sup>汚れを行ないなさい。正しい者はいよいよ正しいことを行ない、<sup>せいと</sup>聖徒はいよいよ聖なるものとされなさい。」

12「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに<sup>おう</sup>応じて<sup>むく</sup>報いるために、わたしの報いを携えて来る。」

13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」

14 自分の着物を洗って、いのちの木の<sup>き</sup>実<sup>み</sup>を食べる権利を与えられ、門を通過して都にはいれるようになる者は、幸いである。

15 <sup>いぬ</sup>犬ども、<sup>まじゆつ</sup>魔術を行なう者、<sup>ふひんこう</sup>不品行の者、<sup>ひとごろ</sup>人殺し、<sup>ぐうぞう</sup>偶像を拝む者、<sup>この</sup>好んで<sup>いつわ</sup>偽りを行なう者はみな、外に出される。

16 「わたし、イエスは御使<sup>つか</sup>いを遣<sup>しよきょうかい</sup>わして、諸教会について、これらのことをあなたがたにあかした。わたしはダビデの根、また子孫、輝<sup>あ</sup>く明<sup>みょうじょう</sup>けの明星である。」

17 御<sup>みたま</sup>霊<sup>はなよめ</sup>も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください。」と言いなさい。渴<sup>かわ</sup>く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。

18 私は、この書<sup>よげん</sup>の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。

19 また、この預言の書のことばを少しでも取<sup>と</sup>り除<sup>のぞ</sup>く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。

20 これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。主<sup>しゅ</sup>イエスよ、来てください。

21 主<sup>しゅ</sup>イエスの恵<sup>めぐ</sup>みがすべての者とともにあるように。アーメン。

(出典) 新改訳聖書刊行会翻訳『聖書 新改訳(引照・注つき)』、pp. 437-461、財団法人日本聖書刊行会、昭和48年7月1日。(絶版)

(制作) 矢部 完